

命ぬ水

沖繩県

那覇市立上山中学校 二年 当山 紬喜

若夏の到来を告げる那覇ハーリー、四年ぶりに開催。およそ六百年前に中国から伝わったとされるハーリーは童をかたどった手漕ぎの船「爬龍船」で速さを競う沖繩の伝統行事です。一般的には、海神祭のひとつで航海安全や豊漁を祈願するための伝統行事と言われています。しかし、ハーリーの由来を調べてみると五穀豊穡のための雨乞いの儀式の意味合いや由来があることがわかりました。

私が住む沖繩県は、南北に細長く山が低く少ないうえに、川が東西に流れているので距離が短い地形になっています。そのため降水量が多くても海に流れ出す水が多いので水不足に悩まされてきました。伝統行事の中に雨乞いの儀式が含まれているのは昔の人々が干ばつによる飢饉を恐れたためだと思います。

「水がもつたいないさー。止めなさい」朝の洗顔の時など、日常で祖母は口うるさく私や姉に注意します。うるさいな。水くらいいちいち怒らなくてもいいじゃないかとイライラすることもありますが。ペットボトルの水を買って、飲みかけのまま置くこともありません。そのことを母に愚痴ると、「昔の沖繩は水不足に苦労してきたし、特に祖母が幼いころは戦後すぐだから毎日お風呂に入ったりするのも大変な時期もあったみたいだよ。トイレも汲み取りだったから水の大切さを教えたいのだと思うよ。」と話してくれました。沖繩の水事情を調べてみると今でこそ沖繩県内では、断水や渇水がなくなっています。祖母が若い頃の昭和三十八年には、年間の降水量が半年の半分以下という七十年ぶりの大干ばつに見舞われたので農作物や家畜への被害が甚大を極めたとの記録がありました。母が小学生だった昭和五十六年から五十七年にかけては三百二十六日に渡り時間指定による給水制限があったことを知り驚きました。断水と言えば沖繩の家やアパートの屋上

や敷地内にタンクが設置されていることが多いのですが、私が住んでいるアパートで、タンクから水をくみ上げる給水ポンプが故障して半日断水になったことがあります。トイレの水が流せない。蛇口から水が出ない！と留守番をしていた私と姉は母に電話をして祖母の家へ避難しました。断水後の茶色い水も嫌でした。わずかな時間の断水でもかなり困ったのに長期的日常的に断水や時間給水になったときの人々は大変だっただろうなと思います。

蛇口をひねればいつでも綺麗な水が好きだけ使える私達の暮らし。生活と水は密接な関係です。水が少し足りなくなるだけで快適な生活を送ることはできません。命や生活を支えてくれる水ですが無限にあるものではないということを考えてほしいと思います。

ここ近年の沖繩では、集中豪雨が増え台風接近が減る、降水量も少なくなっているなどの気象の変化や人口増加に伴う都市化で自然も減る傾向にあります。沖繩の水がめと言えるヤンバルの森の自然破壊はダムに大きな影響を与えています。

都市部の河川はいまだに綺麗とは言えない状態です。生活排水などの問題だけではなく道路にポイ捨てしたごみが川や海を汚していることを考えないといけません。私は小学生の時にビーチクリーンをしていました。沢山のごみが身近な海岸に流れついていました。

観光客が沖繩の汚れた海や川を見てどう思うでしょうか？沖繩に住む私たちが水や自然を大切にすることを意識をもち努力しないと観光地としての魅力も無くなってしまいます。水を大切にして感謝の気持ちを持つためにも節水をするこやポイ捨てをしない努力や身近な自然破壊を守るこ

とが大切だと思います。